ECOMUSE

資料館だより

NO.59
2017年
2 月号

過去と未来がひびきあう
ーようこそ、エコミューズへ。
www.aozora.or.jp/shiryou/

あおぞら財団付属
西淀川・公害と環境資料館
エコミューズ

あらたな道を歩もう公害資料館の“わ”
第4回公害資料館連携フォーラムin水俣を開催しました！

2016年12月16日～18日、水俣市立水俣病資料館で第4回目となる公害資料館連携フォーラムを開催しました。今回は「公害入門」「資料保存」「地域づくり」「学校」「展示」「企業」「教育旅行」といった分科会が設けられ、それぞれ活発な議論が交わされました。

「公害入門」では、公害環境問題研究の第一人者である宮本憲一先生の「公害とは何か―日本公害史の教訓」と題したお話がありました（左下の写真）。世界共通の社会問題である環境破壊・公害の社会的特徴や構造的要因、公害反対運動の誕生から公害問題解決に向けての道のり、日本の環境対策の失敗と成果が述べられました。その中で、西淀川の裁判闘争について、裁判を市民運動にした点、被害救済だけでなく地域の環境再生を初めて訴えた点で、公害史上大きな意味を持つと評価されました。しかし、戦後公害問題はすべて解決したとは言えないとし、現在社会が抱えている環境問題についても触れられました。

2013年に公害資料館ネットワークを結成してから、公害資料の取り扱いの難しさが課題の1つとなってきました。「資料保存」の分科会では、熊本水俣病関係資料の概要と各館における資料の整理と公開方法・課題について共有した上で、資料目録をめぐる課題について目録を共有・公開することの利点は何か、目録に必要な項目とは何かという論点から議論しました。横断検索を可能にする共通項目を設定する必要性や、専門家であるアーキビストの必要性などが挙げられたほか、公害資料の多様性や資料を検索するためのキーワードの重要性も指摘されました。次回は大阪市立大学で12月15～17日に開催します。ぜひご参加ください。（北嶋奈緒子）

【地球環境基金助成事業】

清里ミーティングで公害教育の分科会を開催

昨年11/5(土)～7(月)、国内最大級の環境教育の交流会「清里ミーティング」の記念すべき第30回に参加しました。西村仁志さん（広島修道大学）とともに「いま『公害教育』を考える」という分科会をエントリー。参加者は16人でした。

まず林から日本の公害の歴史について解説。「東京も公害指定地域ですよ」と伝えると、参加者からは驚きの声があがりました。その後、「公害の視点を環境教育に取り入れることでどんなメリットがあると思うか」というテーマでさらに話し合い。参加した高田理事からは「ESDの枠組みから、『社会的公正』を考える視点を持つ」という意見が出されました。

今後も環境教育に取り組む人たちと、現代の教育課題として公害を取り上げる意義、伝えるべきメッセージと内容について考えていきたいです。

（栗本知子）

【地球環境基金助成事業】

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2016で西淀川の事例を報告

2005-2014年の間に行われた、国連ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の10年では、西淀川地域はモデル地域となって、公害地域再生の活動を結び付けて活動してきました。2015年以降のESDを考えるために、東京で「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2016　ESD第2ステージ：未来を作る学びの俯瞰図」が開催され、地域のESD先進事例に学ぶということで、あおぞら財団の取り組みを発表してきました。ESDは環境教育の文脈で進められることが多いのですが、本来であれば人権教育や平和教育、福祉教育などにもかかわります。あおぞら財団では、公害を切り口にして、幅広い視点を持ってESDを今後も実践していきたいと考えています。　（林美帆）

写真：ESD活動支援センター提供